

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

古き良き伝統を継承・発展させながら、地域に根ざし、地域に愛される普通科高校として、その「山高スピリッツ」を受け継ぎ、多様化が進む社会において他者を尊重することのできる、自己肯定感の高い、感受性豊かな人間を育成する。

- ・主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を図ることで基礎学力の定着につながる学習習慣を確立し、一人ひとりの進路目標の達成につながる教育をめざす。
- ・盛んな学校行事や部活動を通して、目標達成に向けた生徒主体の運営をねばり強く支援し、挑戦する力の育成を図る。
- ・主体的に他者と協働し、バランス感覚に長けた生徒の育成に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
- ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進め、1 人 1 台端末の活用を実践する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度、授業理解度を、令和8年度にはそれぞれ 90% (R3 :79.3%, R4 :81.6%, R5 :88.0%)、88%以上 (R3 :82.1%, R4 :82.1%, R5 :85.6%) にする。
- イ 成績中位者層・成績不振者層に対する教科で統一した指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における授業集中度、家庭学習度を毎年2%以上引き上げ、令和8年度にはそれぞれ 91%以上 (R3 :87%, R4 :85.2%, R5 :88.9%)、45%以上 (R3 :42.6%, R4 :44.2%, R5 :36.5%) にする。
- (2) グローバル社会に対応できる人材育成の観点より、将来への夢や志を育み将来につながる課題解決能力を探究させる。
- ア 探究をはじめ、あらゆる教育活動における言語活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。
- イ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを通じ、英語に慣れ親しみ英語検定や GTEC にチャレンジする意欲を持たせる。
- ※図書館の年間貸し出し数 5000 冊以上をめざす。(R3 :4154 冊, R4 :3921 冊, R5 : 4788 冊)
- 英語検定 (準2 級以上) と GTEC の受験者数を 150 名以上とする。(R3 :28 名, R4 :154 名, R5 :110 名)
- (3) より高い進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。
- ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、生徒一人ひとりの多様な進路目標の実現に向かって自主的に努力する生徒を育成する。
- イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。
- ※共通テスト出願者数を引き上げ、100 名以上をめざす。(R3 :71 名, R4 :81 名, R5 :70 名)
- 令和8年度までの3年間で、国公立大学3名 (R3 :3 名, R4 :2 名, R5 :1 名)・難関私立大学 20 名以上 (R3 :18 名, R4 :19 名, R5 :19 名) の合格 (現浪合わせて) をめざす。

2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成

- (1) 生徒の規範意識を醸成するとともに、人権・多様性を尊重する教育を推進し、個々の生徒への支援体制を充実させる。
- ア 基本的生活習慣の確立のうえに規範意識の高い自立した生徒集団づくりをめざす。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができるよう教育相談体制の充実を図る。また、「いじめ防止対策委員会」を中心に、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。
- ※生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度を令和8年度には 80%以上 (R3 :63.5%, R4 :72.5%, R5 :78.0%) に、担任以外に気軽に相談できる先生の存在肯定率を毎年1%以上引き上げ令和8年度には 70%以上 (R3 :48.1%, R4 :58.8%, R5 :68.9%) にする。
- また、人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率を 95%以上 (R3 :94.6%, R4 :92.9%, R5 :95.6%) を維持する。
- イ 日ごろの教育活動を通じて、自尊感情を育て他者を尊重する意識の醸成を育成するとともに、3年間を見通した人権教育計画に基づき、その充実を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会度を毎年1%以上引き上げ令和8年度にはそれぞれ、92%以上 (R3 :85.9%, R4 :88.4%, R5 :89.6%)、88%以上 (R3 :80.7%, R4 :81.2%, R5 :85.4%) にする。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団における人間関係力を高める。
- ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度を 92%以上 (R3 :91.1%, R4 :93.2%, R5 :93.1%) で維持する。
- (3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育の充実を図る。
- ア 高大・企業連携を盛り込んだ3年間のキャリアプランを確立させ、地域や同窓会などの外部人材を積極的に活用し社会に貢献できる人材を育成する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会の肯定率、進路情報満足度を令和8年度にはそれぞれ 90%以上 (R3 :88.5%, R4 :89.4%, R5 :93.4%)、95%以上 (R3 :93.6%, R4 :93.2%, R5 :94.5%) を維持する。

3 地域連携・交流を促進する情報発信力の確立と、教職員の働き方改革を両立させる学校組織づくり

- (1) 地域交流のさらなる拡大と深化を図り、社会に貢献できる生徒の育成に取り組むとともに外部への情報発信力をさらに強化する。
- ア 支援学校、近隣のこども園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動を通じて、共生社会の担い手となる生徒を育成する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの方の多さ肯定率、近隣の学校との交流の方の多さ肯定率を令和8年度にはそれぞれ、40%以上 (R3 :24%, R4 :26.7%, R5 :37.8%)、45%以上 (R3 :23.6%, R4 :20.9%, R5 :42.2%) にする。
- イ HP や学校説明会・中学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。
- (2) 業務の効率化 (業務の精選と平準化) を図り、在校時間の縮減に努め教職員の健康管理と意識改革を行う。
- ア 業務の効率化の促進
- イ 分掌改編も含めた組織改革を推進し、業務の平準化を図り、多忙感を解消と時間外勤務の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1 生徒からの回答について ・全回答の肯定率平均は 83.4%と昨年度を 1.8%上回り、かつ高い数値を維持しており、本校の教育活動について前向きに捉えて学校生活を送る生徒が多いと判断できる。一方否定的な回答についても一定数あること	〔第1回〕令和6年7月17日(水) ○令和5年度学校評価および令和6年度学校経営計画について ・学校の魅力発信のため、広報を充実させてほしい。また、Web サイトを見やすくわかりやすいものにしてはどうか。SNS の活用も有効な手段である。

から、その内容を精査し改善していくことで、生徒がより満足度の高い高校生活を送ることができるよう努めていきたい。 ・「授業には、家庭学習をして積極的に取り組んでいる」の項目では昨年度より肯定率が 13.2 ポイント上昇しているが、割合的には依然低い状況である。また「平日および休日の家庭学習時間」の項目については 1 時間未満とほとんどしないを足した割合が約 60%となっている。単に日常の課題をこなすだけではなく、自ら学ぶ姿勢を身につけ、より質の高い家庭学習を生徒全員が習慣化できるよう指導・支援していきたい。 ・学校行事や進路関係、安全安心な学校生活に関する項目は肯定率が非常に高く、これまでの本校の取り組みが良い形になって表れている。今後「学校生活についての先生の指導への納得度」についても肯定率を同水準に引き上げていきたい。また「気軽に相談することができる先生がいる」の項目についても支援・教育相談体制を強化することで肯定率 80% 以上をめざしたい。 2 保護者からの回答について ・回答総数が 489 件、全生徒の 59%の回答であり項目によって回答数のばらつきがある。 ・全回答の肯定率平均は 62.2%と、生徒の回答に比べると低い傾向にある。日ごろ学校がどのような教育活動を行っているかを、Web サイトや SNS 等を活用してより積極的・効果的に発信していく必要性を感じる。 ・「生徒指導面や進路指導面での家庭連絡」、「いじめ対応」、「生徒会活動」、「環境面・安全管理面」については肯定率が 50%を割る項目が散見されている。これまで以上に家庭との連携を図りながら、学校の指導方針や運営方針を明確に伝えつつ、保護者の要望に応えられる校内体制を早急に整えていきたい。 3 教職員からの回答について ・17 件の項目において昨年度より大幅に肯定率が上昇した（うち 10 ポイント以上上昇した項目は 10 件）。 ・学習指導面においては、これまでの教員の授業力の向上の取り組みが一定成果となって表れている。しかしながら「思考力を重視した問題解決的な学習」、「評価の在り方について、話し合う機会」の項目については肯定率を大きく下げており、今後の授業改善の大きな課題ととらえている。 ・生徒指導面についての肯定率は全体的に高いものの、昨年度より若干の下降傾向が認められる。本校では現在生徒指導のあり方が過渡期を迎えており、改訂された現行の「生徒指導提要」の趣旨を十分に踏まえながら早期に体制を整備すべき重点課題と考えている。また、今後は生徒とともに学校・校則を作っていくことも必要であると感じる。 ・人権関係の項目の肯定率平均が約 63%とやや低い傾向にある。学校全体として人権感覚の向上に努め、互いに尊重し合える教育を推進・定着させていきたい。	○令和 5 年度進路状況について ・どのような状況になっているか。 →（回答）昨年度より四年制大学進学者が減少したが、浪人をしてでも国公立大学や難関私立大学をめざす生徒が増加した。また、試験方法が多いが、自分に合ったものを探して受験をするよう指導している。 〔第 2 回〕 令和 6 年 11 月 20 日（水） ○学校環境の整備について ・生徒にかかわる環境整備について、費用はかかるが積極的に推進してもらいたい。 ○第 1 回授業アンケートについて ・各学年とも家庭学習をしていない生徒が多いことが課題。 〔第 3 回〕 令和 7 年 2 月 26 日（水） ○学校教育自己診断の結果について ・地域との連携が増えたと感じる生徒が増えた ○先輩に学ぶについて ・今年度は校内でこの春卒業の生徒から講話をしてもらった。同窓会としては、様々な職種の卒業生から講話があっても良いのではという意見があった。 ・八尾市のキャリア教育支援事業を依頼しても良いのでは。大人というサンプルを見ても知ること大事。 ○中学校より ・全体の 3 分の 1 が私学専願で受験している。できるだけ早い時期に進路を決めたいと考える生徒が増えた。本校の魅力が低下したという印象ではなく、本校に行けないのであれば私学を選択するという生徒が増えた。進路指導に難しさを感じている。
--	--

府立山本高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善への取組み	(1) 教科担当や単学年別ではなく、教科ごとに3か年計画を策定し、担当する学年の教科科目の到達目標を設定し、生徒の力を伸ばし、進路実現につなげる。	(1) 「山高3か年計画」の策定・共有	・年度当初に策定済み(○)
	ア 習熟度別・少人数展開 授業の充実	ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、「数学」(第1学年)「英語」(第1学年・第2学年)の習熟度別・少人数展開授業の充実を図る。 特に数学の苦手意識を払しょくできるよう、習熟度別編成を行うまでの1学期の授業内容の充実を図る。	ア・生徒による授業アンケート、授業進度・難易度の3教科平均肯定率85%[82.3%] 数学1年：80%[72.1%] 英語1年：88%[87.1%] 英語2年：88%[87.1%]	・[△] 83.0% 数学1年：85.1% 英語1年：85.9% 英語2年：77.9%
	イ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進	イ・授業改革委員会が主体となり年2回の授業公開週間を定め、グループによる相互授業見学・相互評価を促進する。 ・生徒による授業アンケート(年2回)結果による分析と課題把握を行い、各教科へのフィードバックし授業改善を進める。	イ・相互の授業見学を教員1人につき、年間2回以上行う。[1.3回] ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度88%[88.0%] 授業理解度85%[85.6%] 授業集中度88%[88.9%]	・[○] 2.5回 ・学校教育自己診断結果 授業満足度84%(△) 授業理解度88%(○) 授業集中度88%(○)
	成績中位者・成績不振者層の指導充実	・各教科・学年が連携し宿題や予習・復習等の課題の設定の工夫と、ICT機器の活用を促進することで、家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	・生徒向け学校教育自己診断における平日家庭学習時間1時間以上の生徒：40%以上[36.5%] 平日家庭学習習慣ゼロの生徒：25%以下[31.9%]	・学校教育自己診断結果 平日家庭学習1時間以上41.1%(○) 平日家庭学習習慣ゼロ31.5%(△)
	(2) グローバル社会に対応できる人材育成	(2) ア・探究活動も含めた言語活動を充実させ、人間関係力を高める。	(2) ア・貸出し図書数5000冊以上[4788冊]	・3370冊(△)
	イ Graded Readersの活用から外部検定資格取得の取組み推進	イ・Graded Readers蔵書数の充実を図り、取組みをさらに充実させるとともに英語検定やGTECにチャレンジさせる。	イ・英語検定(準2級以上)、GTEC受験者数130名以上[英検102名／GTEC8名 計110名]	・英語検定(準2級以上)131名、GTEC受験者数0名、計131名(○)
	(3) より高い進路実現への取組み イ 目標・能力に応じた進学講習体制の充実	(3) イ・進路指導部、各教科、学年の組織的連携により進学講習(通常・夏期・冬期)の充実を図る。 ・大学進学希望者を2月・3月入試まで主体的に学習させる。(3年生2月講習の実施)	(3) イ・「学力生活実態調査」のBランク以上が全体の55%以上[51.3%] ・共通テスト出願者100名[70名] 国公立大合格者3名[1名] 関関同立合格者(現浪合計)20名以上[19名]	・Bランク以上48.1%(△) ・共通テスト出願者46名(△) ・国公立大合格者1名(△) ・関関同立合格者26名(○)
2 感性豊かな人間性を持つ生徒の育成	(1) 規範意識の醸成と、人権・多様性を尊重した支援体制の充実	(1)	(1) 教育相談委員会の月1回以上の開催[13回]	・[○] 18回
	ア 個に応じた支援体制の充実と規範意識、自主性に富んだ生徒の育成	ア・生徒の自主・自律を育む生徒指導体制を継続し、高校生活支援カードおよび府のSC事業との連携により個々の生徒を支援する教育相談体制の充実を図る。 ・いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向けた「いじめ防止対策委員会」を中心とした組織体制の確立。 ・全教員の共通認識の下で校則を見直し、継続的で対話的な生活指導を実践し、生徒の安全確保に努める。 ・校則の見直し 生徒会執行部の生徒と定期的に対話を重ね、意見交換することで服装指導の共通理解や遅刻数減に向けた課題解決を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断における気軽に相談できる担任以外の先生 の存在肯定率70%[68.9%] ・生徒向け学校教育自己診断における人間関係のトラブルが少なく落ち着いた環境の肯定率95%[95.6%] ・いじめ対応における教員の真剣な対応肯定率90%[93.1%] ・生徒向け学校教育自己診断における生活指導納得度80%[78.0%]	・学校教育自己診断結果 気軽に相談できる担任の先生以外の存在肯定率68.5%(△) 落ち着いた環境肯定率94.4%(△) いじめ対応肯定率92.9%(○) ・学校教育自己診断結果 生活指導納得度81.9%(○)

府立山本高等学校

	イ 3年間を見通した人権教育の実践と充実 (2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上 ア 生徒会活動の活発化と学校行事等の充実と部活動の活性化に向けた取組みの推進 (3) 総合的なキャリア教育の充実 ア・高大連携・企業連携を盛り込んだキャリアプランによるキャリア教育の充実 ・外部人材の活用によるキャリア教育の実践	イ・人権教育計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育委員会・教育相談委員会が協力して人権教育を計画・推進する。 SNS とのつきあい方についての講演会を実施し、情報社会に対応できるようにする。 (2) ア・生徒会執行部、生徒各委員会の組織化を図り生徒会行事等を通じ生徒の自治意識を育てる。 ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図り、自己の成長につながる自発的活動の一環となるよう定着させる。 (3) ア・キャリアプランに基づいた取組みを進め、適切な進路情報の発信により自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。進路選択のため、生徒のニーズに応じた大学見学会（2年生/7月）を実施する。 ・同窓会の協力のもと学年ごとに「先輩に学ぶ」企画を実施する。	イ・生徒向け学校教育自己診断における人権の大切さを学ぶ機会度 90%[89.6%] 命の大切さを学ぶ機会度 86%[85.4%] (2) ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度 92%以上[93.1%] (3) ア・キャリアプランの策定 ・生徒向け学校教育自己診断における進路情報満足度 95%[94.5%] ・生徒向け学校教育自己診断における進路・生き方を考える機会肯定率 90%[93.4%]	・学校教育自己診断結果 人権の大切さを学ぶ機会度 90.7%(○) 命の大切さを学ぶ機会度 87.2%(○) ・学校教育自己診断結果 学校行事満足度 95.1%(◎) ・学校教育自己診断結果 進路情報満足度 95.3%(○) ・学校教育自己診断結果 進路・生き方を考える肯定率 94.7%(◎)
3 地域連携・交流を促進する情報発信力の確立と、働き方改革を両立させる学校組織づくり	(1) 地域交流の拡大と深化による生徒育成の取組み ア 支援学校、近隣の保育園、幼稚園、小・中学校および地域社会との交流やボランティア活動の促進 イ 学校説明会、中学校訪問のさらなる充実 ホームページの活用促進 (2) 働き方改革 ア 業務効率化 イ 組織改編	(1) ア・生徒会、部活動、授業などを通じた八尾支援学校、近隣の子ども園、小・中学校との交流をさらに充実させる。 ・地域や諸施設との交流やボランティア活動への参加をさらに積極的に実施する。(地域の施設等での出張演奏) ・それぞれの活動の一般生徒への広がりと広報(周知)による校内での認識を高める。 イ・本校のスクールミッションが中学生、保護者に明確に伝わるよう中学や学習塾訪問、学校説明会を通じて、積極的・効果的な情報発信に努める。 ・ホームページを活用して、より活発な情報発信に努め、伝わりやすさとタイミングを追求する。 緊急時にはPTA連絡メールを活用し、迅速な対応を行なう。 ア・積極的にICTを導入して、多忙感を解消する。 ・ノークラブデーや一斉退庁日の徹底 ・部活動方針の遵守 イ 分掌改編の検討を始め、業務の精選と平準化を図り、在校時間の縮減に向けた組織づくりを行う。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりの多さ肯定率 38%[37.8%] 近隣の学校との交流の多さ肯定率 43%[42.2%] ・活動成果の披露の機会を増やす。 集会時の表彰披露、校内掲示等の実施 イ・学校説明会4回以上実施 参加者 1500名以上[1874名] ・訪問要請には100%応える[100%] ・校長による学習塾訪問 20校以上(ポスター・パンフレット配付) [24校] 保護者向け学校教育自己診断 ホームページは役立っている肯定率 70%[69.6%] ・会議のペーパーレス化の定着 ・時間外勤務時間の平均を前年度より縮減 [R5:35h56m]	・学校教育自己診断結果 地域との関わり肯定率 47.6%(◎) 近隣の学校との交流肯定率 42.9%(△) ・始業式や終業式等で随時表彰披露(伝達表彰)を実施(○) ・学校説明会6回実施(○)、参加者 1427名(△) ・訪問要請対応率 100%(○) ・学習塾訪問 28校(◎) ・保護者向け学校教育自己診断 ホームページ肯定率 66.5%(△) ・定着している(○) ・34h05m(○)